

今月第20号は阪和部大阪サウスクラブの鉄谷 明ワイズにご登壇いただきます。



EMC は永遠の課題なのか？

阪和部大阪サウスクラブ
鉄谷 明ワイズ

東西日本区に分かれて既に20年以上が経過していますが、ほぼすべての毎年の EMC 事業主任は悪戦苦闘されています。事業主任は手を変え品を変えて会員増強や新クラブの設立に尽力されておられる様子を垣間見つつその成果が目に見える形で出てくることは少なく、他方弱小クラブの衰退や休止、そして解散というニュースを見るのが少なからずあります。

この現状をいかにして打破し、新しい会員が増え、新しいクラブ設立の目が育つにはどうしたら良いのか、大変難しい課題であります。多くの主任があれ程努力されてきた結果が今の姿でありますから。

20年以上前に事業主任をした私ごときがアドバイスする事は正直ありません。しかし現状打破の特効薬はなかっても何かヒントはないか考えました。一つは今は EMC ではなく MC+E という守りの時でありいかにしてクラブライフ(例会やそれ以外の奉仕活動)を充実させ退会者を減らし、新たな仲間を一人でも見つけることに特化し、新クラブの設立という大変なエネルギーを必要とすることから一步距離を置いてはとを考えます。

二つ目のヒントは、西日本区の現状を冷静に見た時に、毎年の年間行事が多すぎるのが、結果的にワイズメンズクラブとは一体何なのかといった事に結び付き新規会員の獲得はもちろん、クラブや部を疲れさせているのではないかと思います。大胆な考えではありますが、最大のイベントであり一年間最もエネルギーを必要とする西日本区大会のあり様を、ゼロベースで考え直す事や部会、周年例会、新年合同例会等も同様です。ワイズメンズクラブがイエスキリストの示された愛と奉仕の精神を具現化し、YMCA 運動に賛同し協力し共同する事に徹することになれば、今よりはるかにシンプル且つ分かりやすいワイズメンズクラブになるのではと思考しています。そして新規会員の獲得にも寄与するのではと期待いたします。守りの時は必ずしも縮小均衡ではなく雌伏の時であり、将来の飛躍への準備期間と考える事も出来るかと思います。止める勇気、変える勇気、延期する勇気も大変でしょうが、従来慣例や前例を打ち破る勇気が今正に求められているのではないのでしょうか。

(西日本区元EMC事業主任)